

ステークホルダーへの情報提供とコミュニケーション

アンリツは、さまざまなステークホルダーに透明・公正かつ迅速・果敢な意思決定と適切かつタイムリーな情報開示を行うことによって、ステークホルダーとの良好なパートナーシップを構築します。

ステークホルダー	取り組みの状況	コミュニケーション機会の一例、関連サイト
お客さま	<ul style="list-style-type: none"> ● 安全性・品質・先進性の高い製品・サービスの創出、適切な製品・サービス情報の提供、問い合わせ窓口の充実など 	お客さま相談窓口、Webサイトでの情報提供
株主・投資家さま	<p>対象期間：2018年7月～2019年6月</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 海外IR2回(北米、香港)、国内カンファレンス4回参加。また、アジア(香港、台湾、シンガポール、韓国)の投資家との面談を積極的に実施 ● 国内投資家269件、海外投資家166件の面談を実施 ● 株主・投資家の声を取締役会、経営戦略会議、および幹部職向け社内イントラヘフィードバック 	<p>決算説明会、株主総会、IR個別面談、海外投資家に向けたIR活動、経営層が参加する情報開示委員会の設置</p> <p>詳細(WEB) 株式・社債・格付情報</p> <p>詳細(WEB) 情報開示方針</p>
取引先さま	<ul style="list-style-type: none"> ● 当社方針の説明、表彰等を行う取引先さま懇親会の実施 ● 当社事業方針、資材調達方針等を説明する情報交換会の実施 ● 取引先さま製品展示会、セミナー、技術交流会等のビジネス機会創出 ● 取引先さまから改善・要望等をご提案いただく「パートナーQU活動」の推進 ● 当社社員との面談に関するご意見等をいただく「面談時アンケート」の実施 	<p>取引先さま懇親会 情報交換会 取引先さま製品展示会 パートナーQU活動 コラボレーションルームの設置 面談時アンケート</p>
社員	<ul style="list-style-type: none"> ● 社員満足度調査の実施 ● 倫理アンケートの実施 ● ヘルプライン(相談窓口)の設置 ● 階層別、部門ごとの研修の実施 	社員満足度調査、倫理アンケート、ヘルプライン(相談窓口)の設置 各種研修
地域社会	<ul style="list-style-type: none"> ● 「青少年教育との連携」、「地域社会への貢献」、「環境保護活動(生物多様性保全)」を3本柱とした地域密着型の社会貢献活動を展開 	厚木市教育委員会主催「おもしろ理科教室」、厚木市招待少年サッカー大会「アンリツ杯」、厚木市民団体主催「ソフトボール・ドッジボール大会アンリツ杯」、厚木市児童相談所への未使用靴下の寄付、福島県郡山市教育委員会後援「ラジオ製作体験教室」開催、富士山「緑の募金の森」緑化活動 など
NGO・NPO	<ul style="list-style-type: none"> ● 災害発生時の情報共有 ● 認定NPO法人ジャパン・プラットフォーム(JPF)への寄付 	「平成30年7月豪雨」支援金

ステークホルダーへの情報提供とコミュニケーション

社会貢献活動

2018年度の社会貢献活動については、詳細(WEB)をご参照ください。

詳細(WEB)
社会貢献活動

TOPICS 栄養不良の子供たちを救う世界的な活動を支援

アフリカの特定の国々では、飢餓や栄養不良の状態にある子供たちはたんぱく質や医療処置が必要であるにもかかわらず、紛争や社会の不安定な情勢のために、それらを受ける手段がなく多くの命が失われています。このような子供たちを救うために、調理不要でそのまま食べることができる、栄養価が高いペースト状ピーナッツといった栄養治療食品(RUTF)が作られています。RUTFは水も調理道具も必要なく、常温保存が可能であり、簡単に得ることができない必要なたんぱく質や栄養素を配合しています。これは子どもの好みにより合っている専用食です。

アンリツインフィビス株式会社の米国現地法人社長であるErik Brainardは2018年1月に米国で開催された展示会で旧友のひとりに会い、RUTFを製造する会社の飢餓や栄養不良の改善に貢献するプロジェクトを知ることになりました。

「私たち米国現地法人が掲げるAnritsu Cares Programの一部として、またすべての子供たちについて関心があり思いを巡らせている私たちとして、RUTFのメーカーに検査装置を安価で提供しプロジェクトを支援することにしました。特に、包装食品

の中に混入している異物を発見するX線装置を提供しました。それは食品製造・加工装置の中に使われ、UNICEFから求められるものです。私たちは飢餓や栄養不良の状態にある子供たちを救う世界的な活動を支援できることを誇りに思い、私たちの小さな貢献が命を救う一助になることを願っています」

この意思決定は、自社の“Anritsu Cares”というコンセプトに基づいており、またそれは、SDGsのゴール1(貧困をなくそう)、ゴール2(飢餓をゼロに)、ゴール3(すべての人に健康と福祉を)にもつながるものです。



Erik Brainard

President
Anritsu Infivis Inc.
(アンリツインフィビス(株) 米国現地法人)



X線検査装置

ステークホルダーから寄せられた提言

アンリツサステナビリティレポート2019 第三者意見

アンリツグループは、海外売上高比率が約7割を占めるグローバル企業として、サステナビリティに関する国際的な基準に適合した情報開示の拡充を進めるとともに、取締役会による監督および経営トップのコミットメントのもと、部門横断的にサステナビリティ活動を強力に推進している点を評価します。

そのうえで、グローバルなサステナビリティの動向を踏まえ、今後さらにアンリツグループに期待することをE・S・Gの観点から申し上げたいと思います。

ガバナンス(G)の側面では、近年ESG投資の拡大とともに、非財務情報開示における「測定可能性」が重視されています。測定可能性とは定量的なデータ開示ということだけではなく、定性的な情報に関しても、方針、目標および進捗、課題など、その企業がどこに向かおうとしているのか、その到達点を予測し評価することが可能な情報開示という意味です。アンリツサステナビリティレポート2019では、各重要課題に関するマネジメント・アプローチの記述がより充実されており、今後も測定可能性を意識した情報開示と、それを可能にするガバナンス/マネジメントシステムの改善を期待します。

環境(E)の側面では、気候変動に関するTCFD*の枠組みなど、情報開示のルール化の動きが進んでいる一方で、プラスチックゴミの問題など新たな重要課題が発生しています。今年のレポートでは包装の環境配慮に関する情報等が拡充されており、引き続き詳細な環境情報の開示が求められます。

社会(S)の側面では、国連「ビジネスと人権に関する指導原則」に沿った人権の対応が必須となっています。アンリツグループはサプライチェーンや従業員に関する人権への対応はそれぞれ行っていますが、包括的な人権方針の策定および人権デューデリジェンスの仕組みの構築も検討した方がよいと考えます。

最後に、CSRの取り組みが優良と見られている企業であっても、重大な不祥事を起こす事例が近年散見されています。体制や仕組みが実効的に機能するために、社内のレポートライン/コミュニケーション環境の整備と、社外のステークホルダーへのオープンな情報公開を進め、透明性と信頼性をより高めていくことを期待します。



経済人コー円卓会議日本委員会
ディレクター
山口 俊宗

* TCFD (Task Force on Climate-related Financial Disclosures : 気候関連財務情報開示タスクフォース)は、気候関連のリスクと機会がもたらす財務的影響に関する情報開示の向上を目的に、金融安定理事会(FSB)が2015年に設立した国際的イニシアチブ。